

2021年10月24日～10月30日 各家庭でのディポーション用テキスト

[むだではなかった]

人目につかない土の上で
苦しみ流した汗はむだではなかった
さまさまの望みも失せたかに見え
ひそかに涙に泣きぬれて
気落ちしたあなたの心は言った
「すべてはむだであった」と
しかし 主は答えて言われるのだ
「むだではない
どんな大きなことでもよい 信じなさい
信じたことが実現に至るのだ」

あなたの労苦はちりに帰したのか
苦しみは あのさびのようになり
鋭いやいばの上に住みついて
あなたの切れ味を鈍らせたのか
あなたの報いは ちりとさびなのか
そんな考えを捨てなさい
そして主を信じなさい
あなたのたましいが悩みにあるとき
主のご忠実さを思いみなさい

エミー・カーマイケル
Toward Jerusalem より

■任務遂行の訓練（1/4）

心から神のみこころを行ない……。 (エペソ 6:6)

果たすべき任務を忠実に果たしたときほど大きな喜びに満ちあふれることが、ほかにあるだろうか。自分の責任を自覚し、環境が好都合であろうとなかろうと勇敢に立ち向かい、困難や誘惑のために横道にそれることなく、いちずに任務を遂行し、与えられた義務を全うする—このことは大きな喜びをもたらす。私たちが自分の任務を見出し、それを成し遂げるまでの間に、任務遂行の訓練がある。それはしばしば、悪戦苦闘し、非常に困難に見え、時には不可能とさえ思われるほどの訓練である。

与えられた任務を全うした使徒パウロを例に取り上げて考えてみよう。パウロは、「あなたは、エルサレムでわたしのことをあかしたように、ローマでもあか

しをしなければならぬ」という任務を与えられた（使徒 23：11）。神を信じ、神の御旨に従う神の子らは、「あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ」ることのできるすばらしい可能性を持っている（コロサイ 1：9、10）。私たちは「愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟」るべきである（エペソ 5：17）。私たちの牧者なる主によるあわれみ深い導きが備えられている（詩篇 23：1）。彼は「自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているので、彼について行きます」（ヨハネ 10：4）。確かに神の子らにとっては常にそうであった。アブラハムはまだ見たこともない国を継ぐために召された。ヨセフは統治者となり、同胞を助けるために召された。モーセは、奴隷となった民をエジプトの鉄の炉から救出するために召された。羊飼いの少年ダビデは、イスラエルの王となるために油注ぎを受け、ペルシャの王クロスは、エルサレムの再興を命ずるように定められた。マリヤは、主が彼女にお語りになったことが必ず成就するのを見るために、そしてパウロは、ローマでもあかしをするために召された。あなたも私も、この人たちと同様、それぞれの任務を果たすために、神によって召されている。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第三十一章「任務遂行の訓練」より】
※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。